

13. 連合農学研究科

(1) 連合農学研究科の教育目的と特徴	13-2
(2) 「教育の水準」の分析	13-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	13-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	13-9
【参考】データ分析集 指標一覧	13-11

(1) 連合農学研究科の教育目的と特徴

1. 本研究科は、静岡大学大学院総合科学技術研究科及び岐阜大学大学院自然科学技術研究科とともに、構成大学が有機的に連合することによって特徴ある柔軟な教育研究組織編成を可能にし、広い視野、高度な専門的知識と技術、理解力、洞察力、実践力を獲得できる教育を追求する。そして、高度の専門的能力と豊かな学識、広い視野を備えた研究者及び高度専門技術者を養成することを通して、農学の進歩と生物資源関連産業の発展に寄与するものである。
2. 本研究科では単位制教育で多様な科目が提供され、同時に複数教員による指導下での博士論文研究が行われる。これにより、農学の幅広い知識及び課題探求能力の習得のための教育・研究を推進し、境界領域や複合領域の課題に対しても対応可能な問題解決型能力と課題発掘型能力の醸成を目指す。
 - a. 両大学連合の有機性を単位制教育及び博士論文研究指導に活かすよう努める。
 - b. 技術者・研究者としての倫理観を備え、リーダーシップを発揮する人材の養成を図る。
 - c. 総合科学としての農学を理解し社会貢献する研究者及び高度専門技術者の養成を図る。
 - d. 地域貢献に意欲をもつ人材の養成を目指す。
 - e. 国際性をもち、世界で活躍できる人材の育成を目指す。
 - f. 高度な農学関連諸技術と科学の修得に意欲をもつ外国人留学生の受け入れを推進する。
3. 連合大学院教育を実施する本研究科の特色として、学生が構成大学間の中で、幅広い教育・研究指導が受けやすい体制を構築するために、両大学の連携による指導体制を活かした教育研究組織を編成し、副指導体制を充実することで複数教員による研究指導体制を強化し、高度の専門的能力と豊かな学識を有する研究者及び専門技術者を養成している。また、教育の質的向上のため、教育改善活動（FD）を継続的に実施している。これらの教育を実施するにあたり、IT、ネットワークを活用した遠隔教育の実践、集中講義「総合農学ゼミナール」の充実を図るなど、一層の改善を図っている。
4. 教育研究の国際化を図るため、本研究科では外国人留学生を積極的に受け入れ、国際的に活躍できる人材を育成し、国際的な広い視野を醸成する教育を推進している。そのために、英語による教育を促進し、国際的に先導する研究指導を推進している。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 4213-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 4213-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 4213-i3-1～4213-i3-2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 4213-i3-3）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 4213-i3-4（第9～11条））

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2019年度より、国際連携食品科学技術専攻（インド工科大学グワハティ校（IITG）とのジョイント・ディグリープログラム：定員2名）を設置し、アジア地域の食品産業の高度化にグローバルな視点から貢献できる博士人材の育成を開始した。2019年は2名の学生（いずれもホーム大学はIITG）を同専攻に受け入れた。[3.2]

岐阜大学連合農学研究科 教育活動の状況

- 課程修了後のキャリア形成支援を目的とし、2016 年度より、岐阜大学教育推進・学生支援機構のキャリア支援部門が実施するイノベーション創造若手人材養成プログラムが実施する「アイデア・トレーニング・キャンプ」、「ビジネス英語」、「エンライトメント・レクチャー」の3科目を選択科目として新たに取り入れ、受講するように奨励した（別添資料 4213-i3-5）。2016 年度から 2019 年度までに延べ 55 名の学生が同講義群を受講した（表 1-3-1）。[3.1]

表 1-3-1 イノベーション創造若手人材養成プログラム開講科目受講者人数

年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
受講者人数	7	13	29	6

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1 年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 4213-i4-1～4213-i4-2)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 4213-i4-3～4213-i4-5)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 4213-i4-6)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 4213-i4-7)
- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアム（IC-GU12）加盟大学を中心に学生の高度専門職業人としての体験を推進することを目的とした「研究インターンシップ」を選択科目（選択 B：1 単位）に設定し（表 1-4-1）、これを奨励するため、国内向けには最大 50,000 円を、海外向けには最大 200,000 円を支援した（別添資料 4213-i4-8）。[4.1]

表 1-4-1 研究インターンシップ件数

2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
4	3	3	3

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 4213-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 4213-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 4213-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 4213-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 選択科目群（4単位以上が修了要件）の選択に関して、自身の専門に近い科目を選択する傾向にあったことから、農学に関する広い知識を涵養するという教育目的の観点から見直しを行い、2016年度から選択科目群を選択A（農学一般に関する専門科目群）、選択B（科学コミュニケーションスキルに関する専門科目群）、選択C（指導教員が開講する専門分野に特化した科目群）の3分類にカテゴライズし、それぞれから1科目（1単位）以上を習得するように履修システムを変更した（別添資料 4213-i5-5）。[5.0]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 4213-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 4213-i6-2【非公表】）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 4213-i6-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料（再掲）4213-i3-4（第12条））

岐阜大学連合農学研究科 教育活動の状況

- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料
（別添資料 4213-i7-1（第 46 条）～4213-i7-2（第 19 条））
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 4213-i7-3～4213-i7-5）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料（再掲） 4213-i7-1（第 46 条）、（再掲） 4213-i7-2（第 19 条）、（再掲） 4213-i7-4（第 8、9 条））
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料（再掲） 4213-i7-3）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 当研究科の課程博士の取得要件として、研究科が認める学術雑誌に 2 編以上の論文掲載を条件としているが、「論文種別」については明確な基準がなかったことから、「基礎論文として短報等を認める学術雑誌リスト」にリストアップされていないものは要件外とする、いわゆるポジティブリスト制度について、同じ学術雑誌であっても短報としての頁数の違いがあり、一律に運用することが難しいことから見直しの検討をした結果、短報等を認めるかは研究科委員会時の論文審査報告時に主査から短報等の学術雑誌への投稿理由を聴取し、研究科委員会の審査に委ねることとした（別添資料 4213-i7-6～4213-i7-8）。[7.2]

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 4213-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 4213-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料(再掲) 4213-i4-6)
- ・ 指標番号3、5(データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2017年度より、実践的な英語教育を充実するため、英語で実施される科目だけを受講することで課程修了可能な「英語特別プログラム(定員:若干名)」(日本人・留学生混在型授業)を設置した。これに伴い、従来、日本語で実施していた必修科目(「総合農学ゼミナール」、「研究倫理・職業倫理」、「メンタルヘルス・フィジカルヘルス」)を英語で実施することとなり、日本人学生の国際化に大きく貢献した。[A. 1]

<選択記載項目E リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所(別添資料 4213-iE-1)
- ・ 指標番号2、4(データ分析集)

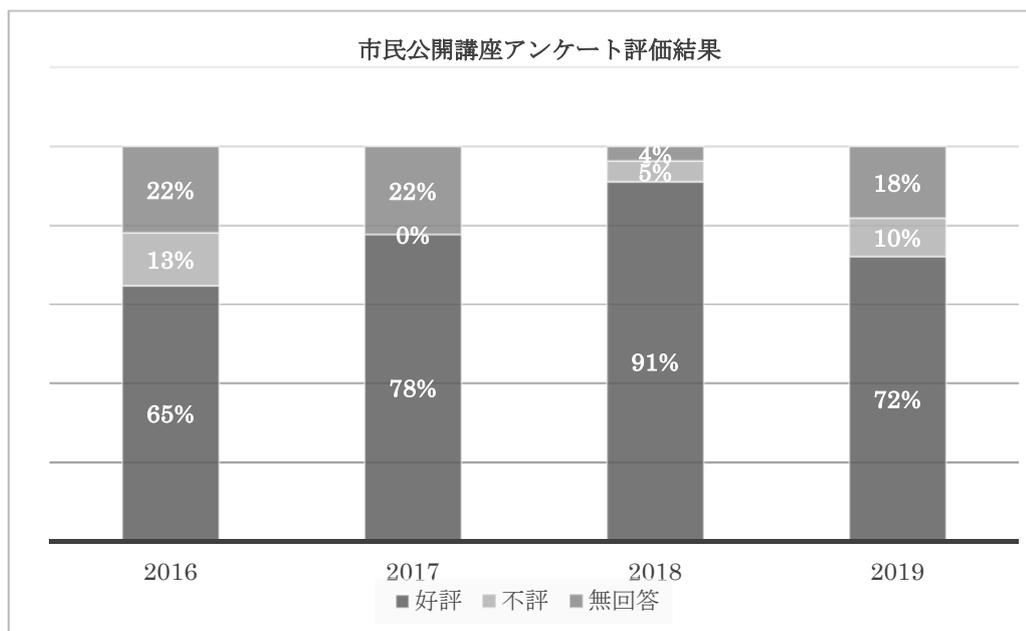
【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 当研究科では2008年度より市民向けの公開講座を実施しており2019年で12回目を迎えた(図1-E-1、1-E-2)。本中期目標期間においては、「微生物と環境(2016)」、「野生生物と環境(2017)」、「肥料と育て方の工夫で野菜をおいしく作る話(2018)」、「食品がつくる環境と環境がつくる食品(2019)」を実施したが、参加者の40%以上が60歳以上のシニア世代であり、リカレント教育の推進に大きく貢献している(別添資料 4213-iE-2)。[E. 1]

図1-E-1 市民公開講座受講者数推移



図 1-E-2 市民公開講座アンケート評価結果



分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 4213-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料（再掲） 4213-ii1-1）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
（別添資料 4213-iiA-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<選択記載項目 C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 4213-iiC-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 当研究科では 2012 年度より、南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアム (IC-GU12) を稼働しているが、そのサポートグループとしてインダストリー一部会を設け、地域産業界との協働や意見聴取する体制を整えている。本中期計画期間中においても、東海地方を本拠地とする企業 10 社が同部会に所属しており、年に 2 回の会合を開催して当研究科の教育・研究について意見交換を行っている (別添資料 (再掲) 4213-iiC-1)。成果の一例として、本研究科で発行している広報誌の効果的なレイアウトについてご意見をいただき、次年度の広報作成に反映させた。[C. 0]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。